

令和6年度 新座市立第四中学校 「学力向上プラン」全体計画

◆本校「学力向上」の基本方針

- ◆学習指導要領に基づいた積極的な授業改善
「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり
 - ・やってみたくなる課題設定の提示
 - ・読解力の育成
 - ・生徒が自ら考えるための問いの投げかけ
 - ・本時の目標の定着度の確認
 - ・生徒のつぶやきを拾う丁寧な授業
 - ・Chromebook、電子黒板、ロイロノート、Qubenaの活用
 - ・ノート指導の工夫

◇令和6年度の「埼玉県学力・学習状況調査」の結果

		国語		算数・数学			英語	
		R5レベル	昨年度からの学力の伸び	R5レベル	R5レベル	昨年度からの学力の伸び	R5レベル	R4レベル
1年	本校平均	7-A		6-B				
	新座市平均	7-A		6-B				
	埼玉県平均	7-A		6-B				
2年	本校平均	7-A	0	7-A	7-C	1	6-A	8-B
	新座市平均	8-C	0	8-C	7-A	2	7-C	9-C
	埼玉県平均	8-C	0	8-C	7-A	2	7-C	9-C
3年	本校平均	8-A	2	8-C	7-A	0	7-A	9-B
	新座市平均	9-C	3	8-C	8-C	1	7-A	9-A
	埼玉県平均	9-C	2	8-B	8-C	0	8-C	10-C

◇調査の「結果分析」と今後の学力向上の取組について

県学調の結果より、特に学力の伸びた学年・教科は、3年国語(74.8%)であった。また、県平均と比較して一番伸びた教科は3年生数学(60.1)であった。
3年生数学の伸びは、授業内で基本的な問題を繰り返し行うことで、基礎的な知識の定着を図り、その基礎的な知識を活用することが要因であると考えられる。
3年生国語では、毎時間、単元の課題や目標を提示することで、生徒に授業の見通しを持たせた。また、問題を解く中で、思考を繰り返して正解にたどり着くような課題設定を行った。本校では令和5年度までに、3年生の「学力が伸びた生徒の割合」が各教科85%以上を達成することを目指し研修を行ってきた。今年度の県学調の数値では達成することはできなかったが、3年間を見通せば、伸び率が向上しており、研修の成果がうかがえる。
令和5年度からは「単元構成及び1単元時間の授業デザイン」について研究を始めた。教師の説明の時間と、生徒の活動の時間のバランスを適切なものにデザインすることで、生徒の主体性を高め、学力の向上を目指していく。

<各教科の課題>

- 【国語】
 - ・学習内容を普段の言語生活に積極的に取り入れ、工夫しながら活用すること
- 【社会】
 - ・習得した基礎的・基本的な知識及び技能を活用すること
- 【数学】
 - ・考えたことを、知識を活用して自分の言葉で説明すること
- 【理科】
 - ・理科の見方・考え方を働かせ、根拠をもって実験結果等を説明すること
- 【音楽】
 - ・確かな知識習得と自分の考えを言語化しながら学習に取り組む環境を整えること
- 【美術】
 - ・鑑賞したものと、制作することを関係づけてイメージすること。
- 【保健体育】
 - ・運動の特性に触れるために生徒相互の関わり合いを充実させること。
- 【技術・家庭】
 - ・課題や思考を言語化し、整理して他者に表現できるようにすること
- 【外国語】
 - ・基礎的な語彙や表現を用いて、目的・場面・状況に応じた自己表現をすること。

校内研修との関連 質の高い学びの実現に向けた 授業スキルの向上

◎効果的な授業デザインに係る研究

1単位時間をどう配分するのが効果的なのか

- ・教師が主導する時間
- ・生徒が活動する時間

① 授業記録シートによる授業分析(各教科及び各学年) → 授業の質的な改善

前年度までの研究成果を土台に

② 生徒同士による学び合い

- ・学び合える時間の設定
- ・ICT機器の効果的な活用

質の高い学びの実現

主体的・対話的で深い学び

課題の改善に向けて

学力向上推進計画 (PLAN)

- ◎ 授業改善に向けた研修課題の設定
- ◎ 年間指導計画・各教科の指導の重点の設定
- ◎ 全教師の年1回の研究授業の計画の設定
- ◎ 放課後や長期休業中の補習学習計画の設定

実践 (DO)

- ◎ 研修部を中心とした研修の実施
- ◎ 年間指導計画を基とした授業の実践
- ◎ 一人一人の教師による研修テーマに応じた研究授業の実践
- ◎ 個に応じた補習学習の実施

課題の明確化 (ACTION)

- ◎ 各教科における新たな課題の明確化
- ◎ 全体計画、年間指導計画の工夫改善
- ◎ 全教員による研究授業における職員各自の新たな課題の明確化と指導方法の工夫改善

評価 (CHECK)

- ◎ 各種学習状況調査(全国・県・校内等)や、生徒・保護者等によるアンケートによる実態把握
- ◎ データ分析(研修推進委員会、教科部会等)、校内研修での周知徹底
- ◎ 全教師の研究授業による教員各自の授業分析

改善への視点(具体的な取組み)

1 指導法の工夫改善	2 評価の工夫	3 ICT機器の活用	4 校内研修の充実	5 検証と分析の充実	6 家庭・地域との連携	7 その他
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 委嘱研究の推進 ◎ チームティーチングの計画的な実施 ◎ 年間指導計画の計画的な運用 ◎ 学年教師がローテーションで行う道徳授業 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 評価に対する考え方を全教師で共有する ◎ 評価規準を基にした評価基準の検討と作成 ◎ 確かな評価を行うための校内研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 電子黒板の効果的な使用 ◎ 生徒用端末の効果的な使用 ◎ ロイロノート等の効果的な使用による学び合いの促進 ◎ Qubenaの活用による基礎・基本の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 質の高い学びの実現に向けた授業スキルの向上 ◎ 効果的な授業デザイン ◎ 各種学力調査・アンケートを分析し、新たな課題を明確にする研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 各種学力調査・アンケートの分析と全教職員への周知 ◎ 生徒、保護者への「学力」「生活」アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ H&S等のアプリの活用 ◎ 学校だよりの定期的な発行とホームページの更新 ◎ 学校応援団活動に四中学校教育への支援 ◎ 保護者会、学級懇談の開催 ◎ 家庭学習の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 毎日の「生活ノート」の充実